



せいほう

青峰学園だより

令和7年3月1日(土)
東京都立青峰学園校長
吉池 久

良き思い出を大切に

校長 吉池 久

— 散りぬとも 香をだに残せ梅の花 恋しき時の 思ひ出にせむ —

これは、古今和歌集の和歌の一つです。この歌は、穏やかな春の日差しの中で、満開の梅の花を見ながら、この先、この梅の花が散ってしまったら悲しいけれど、花が見えなくなっても花の良い香りだけでも残して行ってほしい。その香りを、見えなくなった花を思い出すきっかけにしますよ。という、会えなくなったとしても、相手への変わることのない思い出を大切にしたいということを表した、美しい歌です。

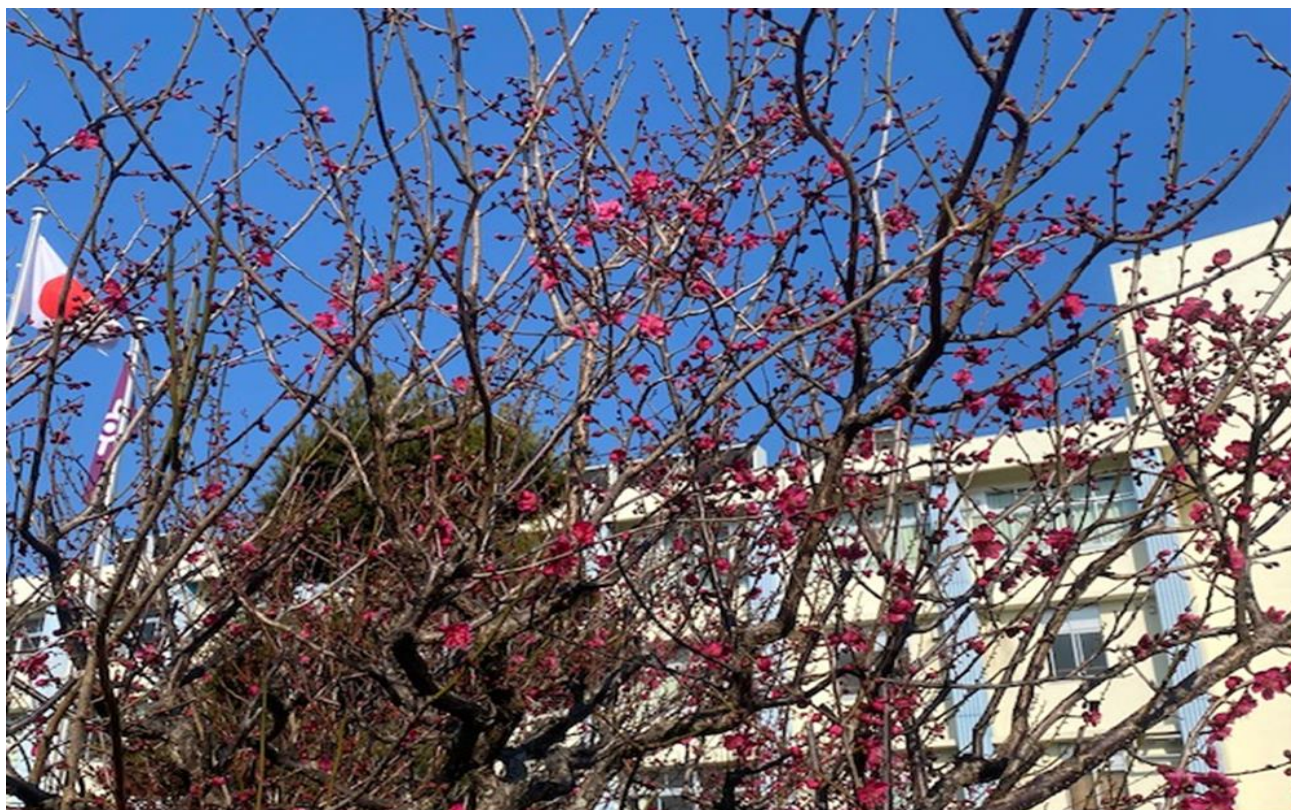
さて、今月の19日(水)には本校の高等部の生徒が、24日(月)には中学部の生徒が卒業します。桜吹雪が舞う頃には、卒業生の皆さんの新しい生活がスタートしていることでしょうか。新しい人との出会いや毎日の通勤・通学、勉強や仕事に一生懸命に取り組んでいることでしょうか。

もしも、自分の気持ちが発散できず、心が満たされていないな、と思った時には、ぜひこの歌を思い出してみてください。そして、梅の花のそばを通った時には、大きく深呼吸をして、花の香りを一杯に吸い込んでみてください。きっと、梅の花が咲き誇る我が母校を、思い出すことができるはずです。

そこには、頼りになる先生や、皆さんを慕っている後輩が、切磋琢磨に励んだ日々を思い出し、これまでと変わらず応援してくれていることでしょうか。新しい生活がスタートしたからといって、皆さんは一人になるわけではありません。必ず助けてくれる人がいます。

そして、皆さんには、たくさんの可能性があります。目標をもってコツコツと努力を続けていけば、夢は叶います。そのことを、青峰学園の3年間で学んだはずですが、これからも、自分を信じていろいろなことに挑戦し、それぞれの生活の質を高めていくことを期待しています。

皆さんの笑顔、元気な声、共に青峰学園で過ごした日々は、私にとっても良き思い出です。



令和7年3月1日 青峰学園の紅梅